

アニメの歴史を彩った殿堂入りの妹たちを紹介します。

※個人の見解です。

‘妹’爆発期

妹があらゆる場面で姿を現し、その存在感で世の中を動かす混沌とした時代に突入する。妹は、いつしか崇高な存在へと変わっていた。



デート・ア・ライブ
五河琴里



新妹魔王の契約者
(テスマント)
成瀬澪



ささみさん@がんばらない
月読鏡々美

‘妹’発展期

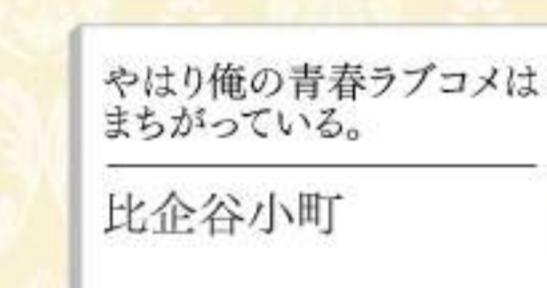
よりさまざまな顔を持つ妹たちが生まれ、世は豊かな妹たちで溢れる豊かな時代に。兄たちは多くの妹を受け入れ、愛し、育てていく。



棺姫(ひつぎ)のチャイカ
アカリ・アキュラ



それ、小町的にポイント
高いよ、兄ちゃん！



やはり俺の青春ラブコメは
まちがっている。
比企谷小町



悟さん、
私のシュークリーも
食べていいんですよ



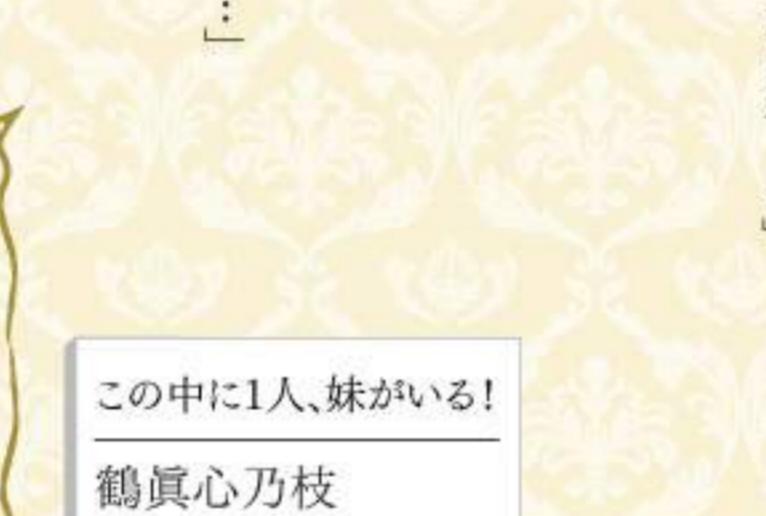
「プラコンは個性だと思うんです。」



お兄ちゃんだけ愛さえ
あれば関係ないよねっ
姫小路秋子



僕は友達が少ない
羽瀬川小鳩



この中に1人、妹がいる!
鶴真心乃枝

‘妹’黎明期

妹の誕生期から程なくして、
さまざまな妹が時期を見計らって
次々と名乗りを上げ、その競い合いが始まる。



恋愛しています、お兄様
ナナリー・ランペルージ



「バルサミコ酢♪」
らき☆すた
柊つかさ



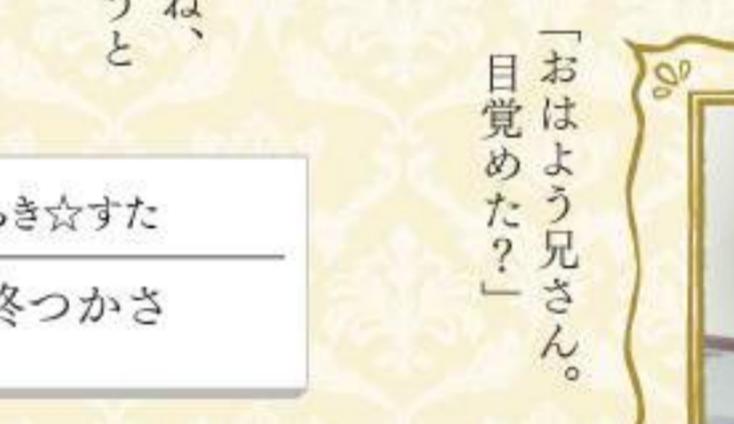
お兄ちゃんのことなんか、
ぜんぜん好きじゃないんだからねーっ
高梨奈緒



おねーちゃん!
ごはんだよ起きてよ!
苺しまる
伊藤千佳



「ねえねえキヨンくんね、
あたしを置いていくこと
したんだよお」
涼宮ハルヒの憂鬱
キヨンの妹



「おはよう兄さん。
目覚めた?」

‘妹’誕生期

元祖とも呼べる妹が産声をあげ、
日本中をどよめかせ、ときめかせる。
この時代、まだ兄としての自覚を持つものは少ない。



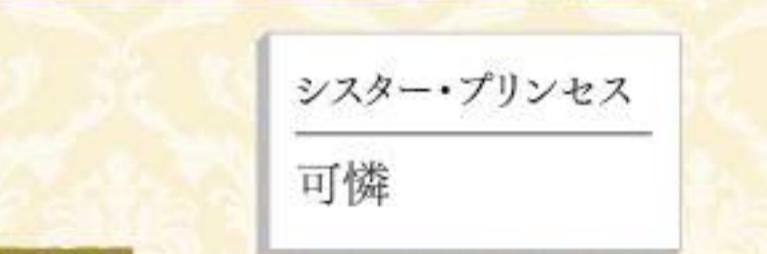
スクラップド・プリンセス
パシフィカ・カスール



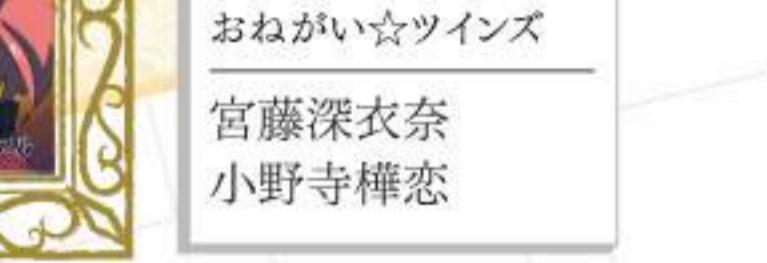
みゆき
みゆき



お兄ちゃん、大好き♥



シスター・プリンセス
可憐



おねがい☆ツインズ
宮藤深衣奈
小野寺樺恋

妹を愛するおにいちゃん
全国の紳士たちへ…
あらたなるでんせつ
妹革命が、今はじまる!



妹さえいればいい。

IMOTO SAE IREBA II.

2017年10月8日より放送開始!!

TOKYO MX 10月8日より 毎週日曜 22:30~ BS11 10月10日より 每週火曜 24:00~

※放送日時は変更になる場合があります。

@imotosae_anime

©平坂謙・小学館／妹さえいれば委員会
バンダイビジュアル株式会社

ある日のこと。小説家の羽島伊月と、同業者の不破春斗と可児那由多、伊月の大学時代の同期の白川京、そして伊月の義理の弟である羽島千尋の5人は、ある大手ライトノベルレベルのイベントに出かけた。そのレベルで活躍する小説家やイラストレーター達のサイン会や、限定グッズの販売、そしてアニメ化作品の先行上映会や声優によるトークショウ、主題歌のライブなどが行われ、会場は大いに賑わっていた。

「嬉しい盛り上がりだつたなあ……。さすが●●文庫」

「そうだな。うちのレベルじや、あそこまで盛況にはならないだろう」

「……だが正直……アニメの出来は微妙じやなかつたか？」

「はは……」「やっぱり先輩もそう思いましたか」

伊月の言葉に春斗が苦笑し、那由多が同意する。伊月たちが先行上映会で観たのは来月から放送開始予定のアニメで、原作はレベル全体の総合力では大手に及ばない。

「え、そう？　あたしは普通に面白かったけど」

「僕もです。良かつたと思いますけど……」

京と千尋が、作家3人の意見に対し不思議そうな顔をした。すると伊月は顔をしかめ、「本気で言つてるのか？　作画は崩壊とまではいかないまでも全体的に低調だつたし、ヒロイン2人の演技は微妙に下手だつたし、演出も古くさい感じだつただろうに」

「うーん……あたし作画とか演技とか言われてもよくわかんないし。アニメあまり観ないから」

「なおもピンときていい様子の京に、春斗が小さく笑う。

「そういえばオレも昔は、作画とか声優とか全然気にしてなかつたなー。毎週楽しんで観てた●●●●一●●●とか●●●●●●一が、原作ファンから黒歴史扱いされてるって知つたときは驚いたもんだよ」

春斗の言葉に伊月は神妙な顔を浮かべ、

「ふーむ、そう考へると、目が肥えてしまうのも考え方だな。京のようにクソアニメでも無邪気に受け入れられるヤツのほうが勝ち組なのかもしれない」

「……あんたちょっとあたしのこと馬鹿にしてない？」

京が伊月を半眼で睨んだ。

「まあ、自分が楽しめるのかが一番大事ではあるけど、やっぱり好きな作品のアニメは、自分以外の大勢の人にも受け入れられてほしいって思うよ」

「それは私も思いますねー。好きな作品が評判悪かつたら悲しいですし、人気が出ればアニメの続編も期待できますし」

春斗が言って、那由多も同意した。すると京は、

「そつかー。じゃあ、なゆはどんなアニメが理想なの？　なゆの好きな作品……たとえば伊月の本がアニメ化するとしたらどうなつてほしい？」

問われた那由多は真顔で答える。

「もちろん一字一句全部原作どおりにやつてほしいです。ストーリーの省略は一切認めません。キャラは原作のイラストをそのまま動かして、声優さんは私の脳内イメージそのままの人じゃないと駄目です。音楽は●●さん（超有名ゲーム作曲家）で、主題歌は●●●（超大物アーティスト）ならOK」

「お前はめんどくさい原作信者だな！」

思わず伊月が大声でツッコミ、それから少し顔を赤くして、

「……まあ、こういう熱心な読者がいるから作品を書き続けていられるわけだし、できれば叶えてやりたいとは思うがな」

「はは、たしかに」と春斗が笑い、「……でもまあ、アニメ化はいろいろあるからね……。●●文庫のヒット作でさえ、あんなつちやうこともあるくらい

だし……。オレたちが読者のためにできるのは、これからも面白い小説を書くことくらいさ」

「ま、そうだな……」

微苦笑を漏らし、伊月はため息をついた。

「にやははー。これからも私のために素晴らしい作品をお願いしますよ、せーんぱいっ」

「く、くつづくなカニ公！」

那由多が笑いながら伊月に抱きつこうとして、伊月が慌てて離れる。

「ちよつとなゆ、道の真ん中でなにやつてんのよ！」と京が那由多を止めようとする。

そんな3人を、春斗と千尋が苦笑を浮かべて見守っている。

何気ない、いつもどおりの日常の一コマ。5人の間を、優しい風が通り抜けた。



妹さえいればいい。
IMOTO SAE IREBA II.

2017年10月8日より放送開始!!